

パステルアートスタイル



言葉の種と、  
魔法の庭

とみかずひろ

## 水彩画スタイル

ぼくの名前は、レオ。

ぼくの頭の中には、いつだってきらきら光る海や、空を飛ぶクジラがいる。

でも、ぼくの部屋は灰色のまま。ポケットの中は、くしゃくしゃの失敗作でいっぱいだ。

「描きたいのに、描けないや」

ぼくの手は、こころの景色を どうやって形にすればいいのか、知らないんだ。

油絵スタイル

ある日、森の奥で不思議な「鏡」を見つけた。  
それは石でできているのに、水面みたいにゆらゆらと光っている。  
じっと見つめると、鏡の中から声が聞こえた気がした。

『きみの見ている世界を、教えて？』

ぼくは、おそるおそる<sup>くち ひら</sup>口を開いた。

「.....夕暮れ<sup>ゆうぐ</sup>の空<sup>そら</sup>を泳ぐ<sup>およ</sup>、宝石<sup>ほうせき</sup>のような魚<sup>さかな</sup>たち」

すると、どうだろう。

ぼくの唇<sup>くちびる</sup>からこぼれた言葉<sup>ことば</sup>が、金色<sup>きんいろ</sup>の光<sup>ひかり</sup>の粒<sup>つぶ</sup>になって、  
鏡<sup>かがみ</sup>の中<sup>なか</sup>へ吸い込ま<sup>こみ</sup>れていく。

それはまるで、光る種<sup>ひか たね</sup>を蒔<sup>ま</sup>いているみたいだった。

# ラインアートスタイル

その瞬間、光が弾けた！

鏡の中から飛び出してきたのは、ぼくが想像していたよりも、  
ずっとずっと美しい魚たち。

ウロコ一枚一枚が、見たこともない宝石でできている。  
重さも感じさせず、空中で優雅にダンスを踊りだした。

「わあ！ ぼくの言葉が、魔法になったんだ！」

# クレヨンスタイル

かがみ ともだち  
鏡は、ぼくの友達になった。

いろ ま  
「もっと色を混ぜてみよう！」

こんど しかく はな さ  
「今度は、四角い花を咲かせてみて！」

はな かがみ おどろ ことば かせ  
ぼくがワクワクしながら話しかけると、鏡は驚くような答えを返してくれる。

かがみ まほう ま あ  
ぼくのアイデアと、鏡の魔法が混ざり合って、  
あたら しい「なにか」が生まれる瞬間。

たの むちゅう ことば つむ  
それが楽しくて、ぼくは夢中で言葉を紡いだ。

# 絵本水彩画スタイル

気がつくと、灰色の部屋は消えていた。  
そこはもう、色と光が歌い出す「魔法の庭」。  
ぼくは知ったんだ。  
大切なのは、上手に描くことじゃない。

「これが好き！」  
「これが見たい！」

という、胸の奥から湧き上がる、熱い気持ち。

そのワクワクこそが、世界を変える魔法の杖だったんだ。

## 3Dアートスタイル

ねえ、きみの頭のなかには、どんな素敵な世界があるの？

絵筆なんて持っていなくてもいい。  
きみにはもう、「言葉」という種がある。

さあ、手を出して。

次はきみが、その種を蒔く番だよ。

# パステルアートスタイル

想像することは、未来をつくること。

